

西アフリカにおける食料需給の現状と将来予測に関する考察

水利用学研究室 小山修司

キーワード：SSA、食料問題、食料生産量、食料消費量、海外援助

1. はじめに

世界人口 60 億人の内およそ 8 億人の人々が栄養不足にあり、これは世界の 7 人に 1 人が、飢餓状態にあることを意味している。飢餓人口の最も多い地域は、アジア太平洋地域であるが、国内総人口における飢餓人口の割合の高い国で見ると上位の国はアフリカに集中している。特に、サブサハラアフリカ（サハラ砂漠以南のアフリカ諸国 以下 SSA）地域の食料問題解決は緊急の課題である。SSA 全体やケニアにおける食料需給および食料生産に必要な水需給に関する現状分析や将来予測は、これまでに行われているが^{1), 2)}、近年、注目を集めているネリカ米の普及が進んでいる西アフリカ地域を対象とした食料需給の考察はなされていない。そこで、本研究では、西アフリカの食料生産および消費に関する統計データを収集し、同地域の食料需給の現状について分析した。

2. 収集データおよび分析方法

FAO のデータベース (FAOSTAT)³⁾より 1990 年～2004 年の 15 年間を対象に、西アフリカ各国の人口、各作物の生産量（カロリー換算値）を収集し、1 人当たりの日供給カロリー（kcal/cap/day）を算出した。同様にして、各作物の消費量のデータをもとに 1 人当たりの日消費カロリー（kcal/cap/day）を求め、その 2 つのバランスから西アフリカ地域および各国の食料需給の傾向を比較し分析を行った。

表 1 西アフリカ諸国とその概要(FAO STAT を参考に作成)

3. 結果と考察

対象とした西アフリカ地域 14 カ国の概要を表 1 にまとめた。表に示すように、どの国も農地面積における灌漑面積の割合が極端に小さく 1%にも満たない。主要作物は、米、キャッサバ、とうもろこし、ミレットである。なお、本地域の稲作は

国名	人口 (1,000人)	国土面積 (1,000ha)	農地面積 (1,000ha)	灌漑面積 (1,000ha)	主要作物 (消費の多い順)
ベナン	6,736	11,262	3,467	12	キャッサバ、とうもろこし、米
ブルキナファソ	13,002	27,400	10,900	25	ソルガム、ミレット
コートジボワール	16,631	32,246	19,900	73	米、とうもろこし
ガンビア	1,426	1,130	779	2	米、ミレット
ガーナ	20,922	23,854	14,735	31	キャッサバ、とうもろこし
ギニア	8,480	24,586	12,450	95	キャッサバ、米
ギニアビサウ	1,493	3,612	1,630	25	米
リベリア	3,467	11,137	2,602	3	キャッサバ、米
マリ	13,007	124,019	39,479	236	ミレット、ソルガム、米
モーリタニア	2,893	102,552	39,750	49	小麦、さとうきび
ニジェール	11,972	126,700	38,500	73	ミレット
ナイジェリア	124,009	92,377	72,600	282	キャッサバ、ミレット、米
セネガル	10,095	19,672	8,157	120	米
シエラレオネ	4,971	7,174	2,845	30	米、キャッサバ
トーゴ	4,909	5,679	3,630	7	キャッサバ、とうもろこし

水稲でなく、陸稲が大部分を占める。一般に灌漑農地は降雨依存農地に比べて 3.25 倍の生産性を持ち、灌漑農地を増やすことが将来の食料問題に対処する上で重要と考えられる。

西アフリカにおける現在までの食料需給状況は、カロリーベースで図 1 に示される。生産量が消費量を大きく上回っているのはナイジェ

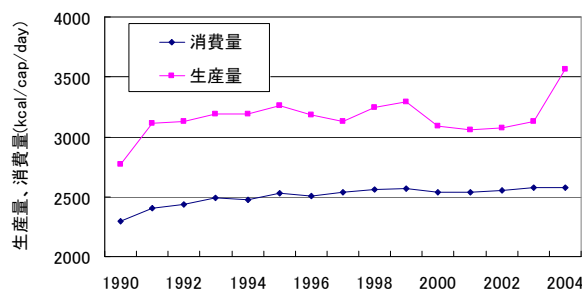


図 1 西アフリカ全体の食料生産と消費のバランス

リアの影響が大きく出ていることによる。同国は SSA 最大の人口（西アフリカの 5 割強）

と農地面積（西アフリカの全農地面積の 27%）を有する大国であり、国の中央をニジェール川が貫通している等、地理的好条件を有する SSA 最大の米生産国である。図 2 にナイジェリアの食料生産と

消費のバランスを示す。

次に、西アフリカからナイジェリアを除く 14 カ国を対象として、食料の生産と消費のバランスを計算した結果を図 3 に示す。しかし、ここでも大きな食料不足は見られなかった。このことから、一見、西アフリカ地域においては食料の自給が確保されているように見受けられる。一方で、リベリアのような国では、食料生産と消費のバランスが図 4 に示すように生産量が消費量を大きく下回っており、食料問題対策は緊急の課題である。さらに、国ごとの食料の生産量と消費量の差は図 5 のようになる。ギニアビサウ、リベリア、ニジェール、シエラレオネでは、1 人当たりのカロリー摂取量が、基本摂取量の最低水準である 2,200kcal/day にも満たない。その状況にも関わらず、食料不足量はかなり多い。このように、西アフリカ地域全体で見ると食料問題の深刻さが見えてこないが、国別に見ていくと地域内の格差が非常に大きいことがわかる。東アフリカ、南アフリカ、特に中央アフリカは栄養不足人口の割合が多い。これに対し、西アフリカは割合でいくと、SSA の中では栄養不足人口の少ない地域といえる。そのため、世界の目はどうしても中央アフリカのように貧困が顕著なところに向けられがちになる。したがって、ここで大切なのは、地域といった大きな視点だけでみるのではなく、国ごとの状況を理解し、実情を正しく認識することである。わが国の ODA においても、真に協力を必要とする国を見極めて実施することが大切である。

4. おわりに

西アフリカ地域は、アフリカの他地域と比べて食料生産能力が低いわけではないが、国による格差が大きく、約半数の国が食料問題に直面している。食料問題解決にむけて、地域の問題として取り組む必要があるが、今まさに食料危機に瀕している国々に対する早急な対策支援を行うべきである。

参考・引用文献

- 1)北村義信・矢野友久(2002) : SSA 地域における食料問題と灌漑・農村開発の展望、農業土木学会誌、第 70 卷 (第 11 号)、pp.989~993
- 2)井田真輔 : ケニアにおける食糧需給と水需要の動向、平成 14 年度鳥取大学卒業論文
- 3)FAO (2006) : statistical Database 2006

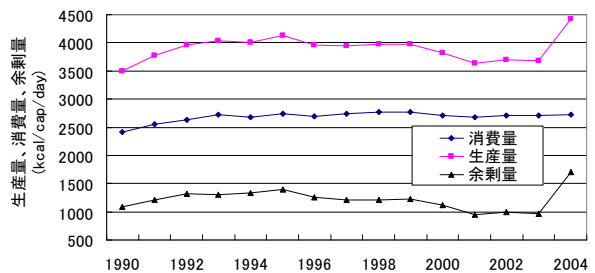


図 2 ナイジェリアの食料生産と消費のバランス

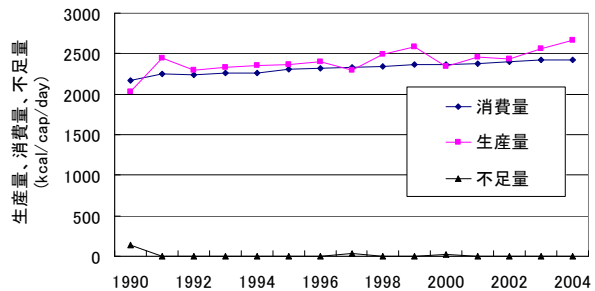


図 3 ナイジェリアを除いた西アフリカの食料生産と消費のバランス

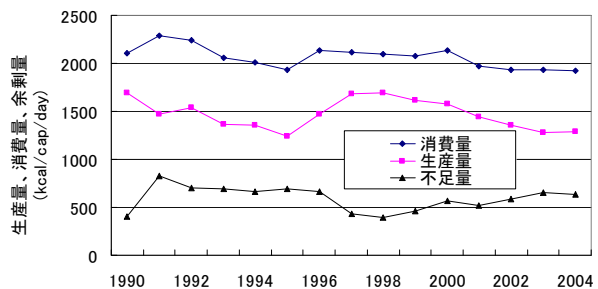


図 4 リベリアの食料生産と消費のバランス

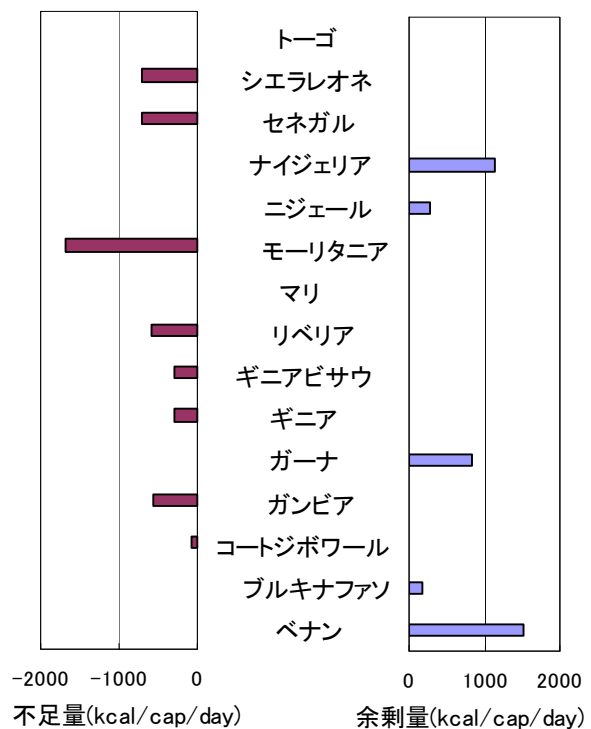


図 5 西アフリカ諸国の食料生産と消費の差